

横浜水道長期ビジョン

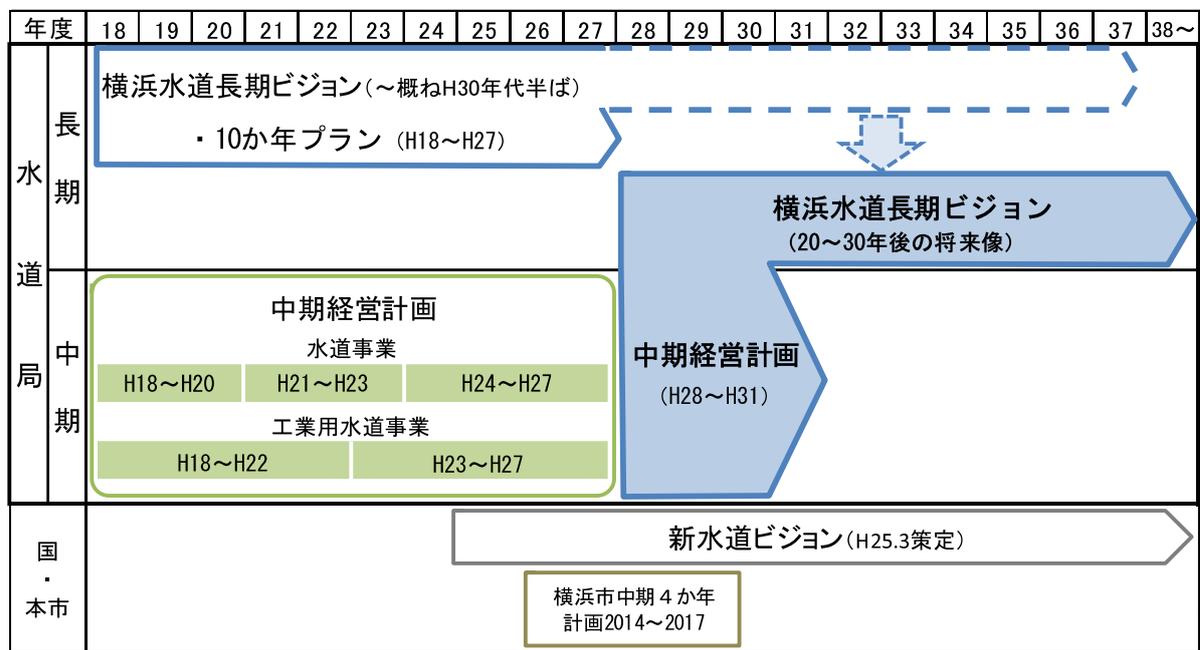
第1章 横浜水道長期ビジョンの位置付け

「横浜水道長期ビジョン」（以下「ビジョン」といいます。）は、本市が将来にわたり持続可能な水道事業と工業用水道事業^{※1}の経営を行うために、20年後から30年後を見据えて、お客さまや事業に関わる皆さまと共有すべき将来像とその実現に向けた取組の方向性を示すものです。

近代水道^{※2}創設以来129年の横浜水道の歩みを踏まえるとともに、様々な側面から将来の事業環境を想定して、この将来像と取組の方向性を描いています。

今後は、このビジョンに基づき具体的な実施計画である中期経営計画や毎年度の予算、運営方針を策定し、事業を運営します。

また、このビジョンは、厚生労働省が将来の水道の理想像や取り組むべき事項、方策を提示した「新水道ビジョン」^{※3}の内容の実現に向けて、水道事業者に策定を勧めている「水道事業ビジョン」に位置付けます。



水道局と国・本市の計画の関係

※1 京浜工業地帯の地下水汲み上げによる地盤沈下対策として昭和35年に創設した、製造業をはじめとした企業に塩素処理等をしていない工業用水を供給する事業で、水道事業とは別会計で運営しています。
 ※2 鉄管などを用いて圧力をかけて給水し、24時間365日いつでも使うことができる水道のことです。
 ※3 平成25年3月に厚生労働省が策定・公表したビジョンで、50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像を「安全、強靱、持続」とし、その具現化に向けて取り組むべき事項、方策等が示されています。

第2章 横浜水道の歩み

第3章 将来の事業環境

第4章 目指す将来像

<基本理念>

暮らしとまちの未来を支える横浜の水

<基本姿勢>

目指す将来像の実現に向けた3つの基本的な姿勢

確かな信頼
Confidence

多様な連携
Collaboration

果敢な挑戦
Challenge

<将来の姿>

ビジョンを共有するお客さまや水道事業に関わりのある皆さまを意識して、5つの領域でとらえた20～30年後を見据えた将来の姿

住宅

個々のお客さま

地域

地域住民、自治会
町内会、学校など

都市

市民・市内
企業など

広域

県内や国内の
水道事業体など

国際

姉妹・友好都市、
新興国など

第5章 取組の方向性

目指す将来像の実現に向けた6つの取組の柱

- 1 安全で良質な水
- 2 災害に強い水道
- 3 環境にやさしい水道
- 4 充実した情報とサービス
- 5 国内外における社会貢献
- 6 持続可能な経営基盤

ビジョンの構成